

道央知的しょうがい者福祉施設協会職員研修会報告

「しょうがい者と共生する社会に向けて」

～専門性のある意思決定支援・合理的配慮～

日時：平成28年11月17日・18日

北広島で行われた研修会に二日間とも参加してきました。中岡です。
今回の研修に参加して私が印象に残ったことなどをお伝えしたい内容をまとめたいと思います。

※1 日目

◎初日の午前中は基礎知識の振り返りと伝達研修の報告でした。
法人内研修の内容と似ています。内容自体はボリュームがあり省きます。

◎午前の後半にはグループで伝達研修報告を聞いてからの疑問点や質問などをまとめましたが、私がいたグループでは同じ法人のケア職、知的入所職員、生振の里職員、自閉症の農作業メイン職員、自閉症ケアホームの所長の方がいました。

悩みは多種多様で、研修報告の内容を実行してみたいけど「人手不足」だったり、「田舎だから人が集まらない」等の声が上がっていました。まだまだ福祉の世界の人材は足りていない様子。他にも職員の性別の問題はどこでもあるようで、他害や自傷の多い利用者対応で男性では可能だけど、女性ではできない。などの問題も抱えているようです。
私個人的な意見だと普段の支援上、男女は関係なく支援するべきだと思っています。

◎午後前半には厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課の課長補佐の菅氏が来訪してくださり。障害者総合支援法の見直しのお話を聞きました。

基本的には高齢の介護や、高齢の方の一人暮らしに対しての話がメインで、我が法人もこれから高齢の方が増え、介護サービスが必要になってくるかと…遠くない話だなと思いました。難しすぎてあまり頭に入らなかったことは内緒です。これからもっと知識入れ込みます。

◎午後後半では午前中にまとめた疑問等を伝達研修の報告者に質問する時間でした。
様々な質問の中でも「見守りと言っても何もしてないだけで放置なのでは？」といった質問もあり、「何もしていないのではなく、その人の行動を尊重している。何を求めているのかを理解するために、まずは本人に行動してもらう(例：急な走り出しがあっても何を求めているのか見守り)。ただし安全に配慮できる環境は心掛けましょう」と返答されていました。
言葉のコミュニケーションが無い方は特に大切なことですね。
といってもはるにれの里の職員の皆さまは基本中の基本で学んでいることと察します。

「意思決定で個別支援計画に反映するコツはありますか？」の質問には、

自身で表現できなかつたり、言葉でのやりとりが困難な方には保護者の意見を取り入れたり、明確な達成ができる内容を取り入れてみたりすること。懇親会等で保護者と会話している時に、キャッチしてみたりすることも重要だとお話ししていました。しかし第三者から見て「本人の意思を本当に尊重している？」と思われることもしばしばだそうで、こればかりはどんなに経験を積んでいる支援者でも頭を悩ませているようです。できるだけ本人が望んでいることを読み取り、反映させるとことが大切であるとお話しされていました。皆さまはいかがでしょう。

※2日目

◎二日目の午前中は強度行動障害についてのお話が聞けるとわくわくしていたのですが、

「自閉症」の基本の基の字の基のお話で終わってしまいました…。

私自身は振り返りになりましたが、自閉症と関りが少ない職員の方にとっては新鮮だったようです。

こちらもはるにれの里の職員のみなさまには普段行っているものと思いますので省略します。

もちろん、基本は何年たっても大切なことで、困った時は基本に振り替えることが大切だと思いました。

◎二日目午後はロールプレイを行いました。とにかく楽しかったです。

↓シチュエーション↓

- ・自閉症の利用者(言葉の理解もあり、やりとりもできる) ・新米職員(担当) ・先輩職員
- ・利用者は作業場に向かう前に活動を運動、箱折り、DVDの3択からチョイス(担当は運動をさせたい)
- ・本人は箱折りをチョイスするが、担当の新米職員が運動しませんか?と誘導
- ・送迎車が来るまで居室待機、いつもは固定のテレビチャンネルのお決まりのシーンを見るのが日課
- ・突然緊急速報が入り番組がニュースに変更、いつものテレビのお決まりのシーンが映らずパニック
- ・利用者「映らない!映らないよ!どうしよう!なんで!?!」と話している
- ・送迎者が来てしまうが利用者は次の行動に移ることができない
- ・担当職員がテレビのリモコンを取ろうとし、「行きますよ!」と誘導するも利用者はパニック中
- ・先輩職員が「おい、送迎の時間だぞ。何している、置いていくぞ」と様子を見に来るが担当が「大丈夫です、なんとかします」と返答
- ・担当は強引にリモコンを奪い、腕を引っ張るなど力ずくで利用者を誘導しようとする。利用者は尚更暴れる。
- ・そこに先輩職員が駆けつけて「何しているんだ!!」と担当職員を止める

◎このシチュエーションを踏まえて、なぜこのような事態になってしまったのか、

改善点や合理的配慮からの視点で考察し、発表せよ。といった事例検討です。

私の班では順を追って考察していくことにしました。

- ・チョイスの段階で利用者の意思決定権を奪ってしまっている。→本当に本人がやりたいことを提供する
 - ・待機時間が曖昧、タイマーなどを使って明確化する。→どんな変更があってもタイマーで行動できる
 - ・利用者が次の行動に移れない理由を傾聴する必要があった。→何があったのか理解、把握する
 - ・先輩職員が来た時に相談するべき。→一人で考え込まず、協力することも大事
 - ・先輩職員側も「大丈夫?手伝う?」など、優しい言い方をすることで新人職員も素直に話せたかもしれない。
 - ・テレビが映らない理由を利用者に説明、言葉で無理ならば視覚化したもので伝える。→注意をそらすのも大事
 - ・入所施設であれば活動自体を中止、送迎には乗らず担当は利用者につき添い、落ち着くまで見守る
 - ・力ずくは虐待になってしまう。お互いに怪我をする可能性、保護者や第三者が見たら虐待にしか見えない。
- などの考察案ができました。自閉症の方に携わっていたらよく起きそうな事例。むしろこのような事例を実際に経験した職員も多いと思います。私も近い内容を経験したことがあります。

そもそもこのようなシチュエーションに出会うことがない。といった声もありました。
ですが、何かいけなかったのか、少しだけ対応を変えるだけで虐待を免れたのではないか、など話しました。
結論から言うとどれが正解とかはありませんが、少しでもいい支援ができたらいいですね。

皆さまもこの事例検討で話し合ってみてはいかがでしょうか。

以上、研修報告でした。長文お付き合いありがとうございます！